

本田増次郎 ほんだ ますじろう 英學者。慶應二年一月十五日美作國久米郡打穴村生れ、大正十四年十一月二十五日没（八六一―一九二五）。初の漢學を學び、次で醫心志として同郷吉岡寛齋に入門。明治十五年上京して英語を修學、翌年嘉納治五郎塾に入る。二十二年受洗、翌年嘉納校長の第五高等中學校英語科教授となつた。二十六年宣教師團の要請で大阪高等英學校校長として經營に當る。二十五年東京高等師範學校教授、兼て東京外國語學校教授となり、津田梅子の女子英學塾をも教へた。二十八年官命により英米留學、サンフランシスコで英字新聞の記者となり、留學任期終了後はニヒューマンズ『ORIENTAL REVIEW』紙に關はり、頭本元貞の後を承けて主幹、爾後四年副筆筆を振ふ。四十五年コネチカッ州のトリニティ大學から名譽文藝博士の學位を受く。歸朝後、中國に遊び、パリ講和會議の折に歐米を巡つて歸つた。大正十年イギリヌ皇太子來朝の際、宮内省より案内役を拜命。

著書に『家庭の模範』（ハイー、ピー、ビュース・エー、シー、ハーツ
ホーン合著、明治二十五年十一月十日青成會）、『カーヴ英雄論詳解』

（明治二十七年十一月一日内外出版協會）、『英文詳解』（明治二十八年十一月一日内外出版協會）等の他、解題譯註『THOUGHTS ON ETHICS』（倫理思想）』（JOHN RUSKIN 著・A. C. HARTSHORNE 編、明治二十六年

一月十八日女子英學塾蔵版、英學新報社）がある。また兒童讀物の古

典として有名なアンナ・シェーエル作『ブラック・ビューティ』の邦譯としてはローレンス・藤井寅一共譯『黒美』（明治二十五年十一月

五日藤井寅一刊、大阪・明昇堂）の次ぐ『驪語』（明治二十六年

九月十五日内外出版協會。のち改題『黒馬物語』（名驪語）』第六版

・大正八年十一月一日興教出版株式會社（を）譯刊。更ひ櫻井忠澄のジ
メト・セウーノ戰記『肉彈』を、『HUMAN BULLET (NIKU-DAN)』(ALL-
CE M. BACON共譯、明治四十年十一月二十日イニホ出版社)と題して共譯
した。

